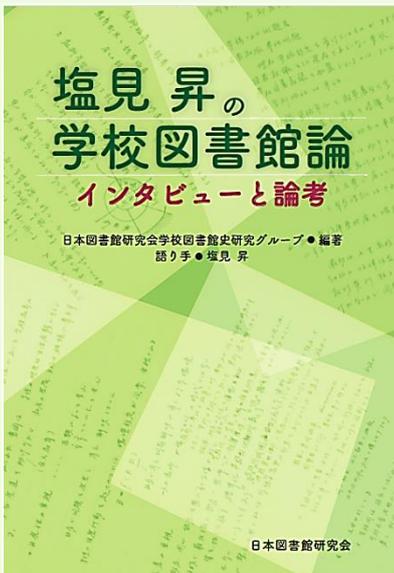


自身が語る、「塩見昇の学校図書館論」の背景!!

# 塩見昇の学校図書館論

## インタビューと論考

■塩見昇の学校図書館理論はいかにして形成されたのか。幼少期・学生時代から、大阪市立図書館員を経て大阪教育大学教員時代までの塩見氏の活動・経験・思考をインタビューによって明らかにし、学校図書館の捉え方、教育と学校図書館の関わりなどを、住民運動、職員論、図書館の自由などの問題を含めて分析した。さらに論考「塩見昇の学校図書館論研究」4編も収録。



### ■本書の内容■

- 第I部 インタビュー  
(語り手：塩見昇 聴き手：学校図書館史研究グループ)
- 第1章 学びの時代 1937～1960
  - 第2章 大阪市立図書館員の時代 1960～1971
  - 第3章 大阪教育大学での仕事
  - 第4章 学校図書館の発見
  - 第5章 学校図書館職員論
  - 第6章 学校図書館の教育力
  - 第7章 学校図書館における「図書館の自由」
- 第II部 論考・塩見昇の学校図書館論研究 (学校図書館史研究グループ)
- 第1章 塩見昇の学校図書館論を考える (土居陽子・永井悦重)
  - 第2章 学校図書館活動論 (鈴木啓子・山口真也)
  - 第3章 学校図書館職員論 (飯田寿美・二宮博行)
  - 第4章 「市民の学校図書館づくり運動」と塩見昇 (梅本恵・高木享子)
- 資料1 昭和52年度「学校図書館学」講義概要  
資料2 塩見昇 学校図書館関連を主とする年譜

### ■第II部について(本書「インタビューを受けて—謝意と期待の一端を」(塩見昇)より抜粋)

「その中で学校図書館の特質をどう捉えるか、学校図書館の役割や機能を生み出す構成原理をどう考えるか、など学校図書館の基本的・総論的な把握に着目した第1章、学校図書館のはたらき、それがどのように学校教育のありようや実践と関わるか、教育を変える上で学校図書館の備える教育力と、とくに知的自由の原則がその内実を支えていることを重視しようとする第2章、学校図書館のはたらきを担う職員の整備充実がつねに学校図書館法改正の課題として法の制定以来持続してきたことを取り上げ、学校図書館職員論を扱う第3章、……」

■塩見昇の学校図書館論 インタビューと論考■ 学校図書館史研究グループ編著 語り手：塩見昇

2023年5月刊 544p 21cm 並製 ISBN 978-4-930992-30-7 定価2,970円(本体2,700円+税)

■ご購入は日本図書館研究会へ TEL&FAX06-6225-2530(電話は月・木13-16時) E-mail: nittoken@ray.ocn.ne.jp

FAX でのご注文にご利用ください。

※裏面もご参照ください。

注文書	図書	塩見昇の学校図書館論 インタビューと論考	ISBN978-4-930992-30-7 定価 2,970 円(本体 2,700 円+税)	注文冊数	冊
	ご購入者	機関名	担当者名		冊
		住所(送付先)	〒	電話番号	

日本図書館研究会 FAX 06-6225-2530

メール nittoken@ray.ocn.ne.jp